

2014.01.14

「細川元首相が都知事などあり得ない」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は1月14日です。

本日10時から党本部にて役員連絡会がありました。その後に、副幹事長会議があり、その中で一番大きな議題が東京都知事選挙です。もちろん、名護市長選挙も重要ではありますが、とりわけ、東京都知事選は昨年、猪瀬前知事が辞職したことで実施されます。しかし、ここにきまして、細川元首相が立候補し、それに小泉元総理が連携して、応援していくのではないかという噂が飛び交っています。とりわけ、細川元総理は脱原発ということで都知事選を戦うのだと主張しています。私は本当に笑止千万だと思います。東京都は日本最大の電力消費地域であります。そして、電力を賄っているのが、福島であったわけで、原子力発電所の地域で脱原発というならまだ理解できますが、その電力を消費している東京が言うのは、おこがましいのにも程があります。しかし、それ以前に何故、猪瀬氏が辞任し、都知事選挙が行われているか、ということです。一番の原因は、猪瀬氏が徳洲会から5000万円のお金を頂き、猪瀬氏は借りたと言っていますが、何のためだったのかということで紛糾し、最後には百条委員会を設置するということになりました。猪瀬氏はこのことについて、説明仕切れないということで、辞任しました。また、細川氏は、日本新党の党首として、自民党から日本新党を作り、マスコミにより時代の寵児になり、8党連立

政権ができました。その時に細川氏は、政治改革を旗印に連立政権を作られましたが、この連立政権の後ろで操っていた方が、小沢一郎氏でありました。そして、細川氏と小沢氏が、唯一、政治改革としてやったことは、小選挙区制度の導入です。私は何度も言っていますが、この小選挙区制度は、時の国会の議論の中で、参議院では否決されました。そして、本来であれば、この法案は廃案でした。ところが、マスコミ等は「政治改革を止めてしまっているのか。」というデタラメな世論を作り、結果的に、もう一度細川氏と河野総裁が、握手を交わし、万年筆をお互いに渡して、「小選挙区制度を成立させるんだ。」と言い、一旦参議院で否決された案が、結局参議院の方でも可決されました。これは郵政解散と似ています。小泉氏の場合も、一旦参議院で否決されました。そして、参議院は何も変わりませんが、衆議院を解散させ、結果的に衆議院の自民党議員が増えました。それが民意だとして、郵政改革を行うことになりましたが、これも可笑しい話でした。要するに、細川氏の実績というのは、選挙制度を変えたということですが、これが20年経ってみれば、とんでもない改革だったと、皆様もお感じになられたでしょう。そして、その細川氏は、突然辞任されました。何故辞任されたのでしょうか。あの当時、佐川急便から1億円のお金を貰っていました。そのお金は貸付ということでしたが、一体何のために借りたのか、ということを経済委員会の中で、追求されました。すると、突然細川氏も辞任されました。当に猪瀬氏が辞任された理由と、全く同

じ理由で細川氏は、20年前に総理を辞任されました。そして、政界の最前線から身を引き、陶芸家になっていたと想像していたら、脱原発を掲げて、今回の都知事選挙に立候補しました。また、小泉元総理も応援するかもしれない、ということですが、これにつきましては、悪い冗談であり、新年早々から辞めて頂きたいと思います。つまり、今回の都知事選挙は、当に猪瀬氏の知名度と人気先行だけで知事を選び、その知事は、徳洲会から5000万円という、説明のつかないお金を貰ったことが原因で、行われている選挙です。20年前に同じことを行って、総理を辞められた方が、もう一度選挙に立候補することは有り得ません。また、細川氏が、総理時代に行った政治的実績は、私から見れば、実績は全く無く、政治の沈滞、経済の停滞をもたらした、最大の原因であると思います。また、同じく小泉元総理も細川氏と同じ責任があると思います。こういった方々が、都知事選挙にもう一度出てくることは、本当にいい加減にして頂きたいと思います。自民党では、都連が舛添氏を推薦するということが、私は何が何でも、細川氏の立候補だけは、全く納得ができないということ、国民の皆様方に考えて頂きたいと思います。

本日も御覧頂きありがとうございました。